

質問に対する回答について
工事名) 磐越自動車道 鳥屋山トンネル工事

質問事項と回答

番号	質問事項	回 答
1	<p>「15-3 工事用道路の共同使用」について、番号 1～3 および番号 6～8 の工事用道路は他工事と共同使用とありますが、走行速度などの取り決めはあるでしょうか。</p>	<p>貴社の施工計画に基づき安全走行可能な速度でお考えください。</p>
2	<p>トンネル掘削 DIIIa(H)-1-K の数量 について、数量総括表 (1) では 15,074.6m³ となっておりますが、数量を算出したところ、弊社も 15,227.6 m³ となりました。下記のいずれが異なっているのか、ご指摘いただけないでしょうか。</p> <p>① 上半掘削数量 9,691.8 m³ (= 63.345m³/m×153.0m)</p> <p>② 下半掘削数量 4,382.2 m³ (= 28.642m³/m×153.0m)</p> <p>③ インバート掘削数量 1,153.6 m³ (=7.540m³/m×153.0m)</p> <p>合計数量 15,227.6m³ (=①+②+③)</p>	<p>令和8年3月27日掲載の「質問に対する回答について⑥」質問番号3に対する回答のとおりとなります。</p>

3	<p>番号 80 および 81 の鋼アーチ支保工 D I -L(H)- I および D I -L(H)- II について、特記仕様書の D I -L(H)- I の区分内容には「トンネル掘削D I (H)-A-K-L に使用」と記載があります。一方で、設計図の数量総括表 (1) の D I -L(H)- I の数量は D I (H)-K-L の 128.0 基となっており、金抜設計書の数量も 128 基となっています。同様に、D I -L(H)- II の区分内容には「トンネル掘削D I (H)-K-L に使用」とある一方で、数量が 32 基となっています。番号 80 および 81 の鋼アーチ支保工において、仕様もしくは数量が入違いになっているように思われますのでご確認願います。</p>	<p>各項目の区分内容について、正しくは以下のとおりとなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鋼アーチ支保工D I -L(H)- I はトンネル掘削D I (H)-K-Lに使用 ・鋼アーチ支保工D I -L(H)- II はトンネル掘削D I (H)-A-K-Lに使用 <p>交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
4	<p>計測工 B 地中変位測定について、特記仕様書の区分内容では「L=8.0m」となっていますが、設計図を確認したところ DⅢa(H)-R-K および DⅢa(H)-1-K の地中変位測定は L=6mとなっています。計測長さにかかわらず、計測工 B 地中変位測定の費用はすべて番号 86 の単価項目に計上するものと考えて良いでしょうか。</p>	<p>その通りでお考えください。</p> <p>なお、地中変位測定の延長について、交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。</p>
5	<p>特記仕様書 12-2 の夜間作業を行うことができる項目に「調査ボーリング工」の記載がありませんが、夜間作業は可能でしょうか。</p>	<p>特記仕様書12-2夜間作業に示す「トンネルの施工」には、調査ボーリング工を含むものとし、夜間作業は可能です。</p>

6	調査ボーリング工の先進ボーリングについて、ノンコア区間の日当り施工量は何mと想定されているか、ご教示ください。	貴社の施工計画に基づきお考え下さい。
7	工事用道路維持費の散水について、散水車の1日当りの稼働時間は何時間と想定されているか、ご教示ください。	貴社の施工計画に基づきお考え下さい。
8	汚濁水処理設備の上屋について、上屋の高さはどの程度と想定されているか、ご教示ください。	貴社の施工計画に基づきお考え下さい。